

# 敷島エリアグランドデザイン検討会(第1回)

## 議事要旨

日時：令和5年2月8日(水) 13:30~14:30

場所：群馬県庁29階 第一特別会議室

### 1. 開会

### 2. 検討会設置

### 3. あいさつ

### 4. アドバイザーあいさつ

### 5. 議事

#### (1) 敷島憲章(案)について(資料1~4)

A 委員 : 敷島公園は地震や火災時における前橋市の「指定緊急避難場所」となっているが、憲章に災害時の対応は盛り込まないのか。また、スポーツ施設は、全国大会やプロスポーツが実施されるなど、県のスポーツ拠点であるが、競技者が最大限に力を発揮できる環境づくりなどは憲章に盛り込まないのか。

事務局 : 10年20年という視点では必要と認識しているが、憲章ではまず50年先の将来像を描き、近い将来に必要な課題はバックキャストで考えていくつもりである。

アドバイザー : 憲章では、50年後も変わらない部分についてとりまとめられている。災害時に対応する機能を有すること  
は大前提であり、憲章では、3点目の「地域への愛着や誇りを育み暮らしの価値向上を目指す」という部分に内包されていると考える。また、スポーツ施設については、2065年には現役世代1.3人で1人の高齢者を支える社会、生産人口層が半減することが予想され、施設稼働率や維持管理の負担を考える必要がある。そのような社会構造変化への対応を含め、スポーツ施設に関する観点はデザインの段階で検討していけば良い。

B 委員 : 敷島憲章の前文にある「園内のスポーツ施設を結び付け」という表現について、園内にはスポーツ施設以外の施設もあるため、「スポーツ施設」の表現を変えた方がよいのではないかと。

アドバイザー : 他施設も包含する言葉に修正すべき。「スポーツ施設」を「各種施設」とするのはどうか。

事務局 : 該当箇所(資料2 P.9、資料3 P.3、資料4)について「各種施設」へ修正する。

C 委員 : 市民や関係団体などとの合意形成は丁寧に対応いただきたいと思うが、どのように考えているのか。

事務局 : 地元関係者の地元市議、自治会長、観光連盟会長等から意見を伺うと共に、県民に広く意見を聞くためにパブリックコメント等を実施する予定である。

D 委員 : 敷島公園は数々の大規模スポーツイベント等が実施されてきた歴史ある場所という思いがある。住民目線で、過去についても大切にしながら次世代に引き継いでいく工夫ができると良いのではないかと。

事務局 : マスターデザインの策定段階において、そのような観点も踏まえて検討していきたい。

アドバイザー : 地域の人の活躍の場だけではなく、記憶の場としても検討を進めていくべきである。単に地域の歴史資料館などを設置しても利用されにくい実態などがあるので、みんながリアルに感じながらその次の世代へと語りつぐような記憶の残し方についてもデザインしていくべきである。

議長 : 敷島憲章の前文にある「スポーツ施設」の文言について、「各種施設」に修正のうえ、敷島憲章(案)

として決定して良いか。

各委員 : 良い。

## (2) 敷島エリアマスターデザイン等について(資料5)

議長 : 敷島エリアマスターデザイン等について、資料5の通り進めることでよいか。

各委員 : 問題ない。

議長 : 今後の検討に向け、アドバイザーから助言があればいただきたい。

アドバイザー : 委員の多くが50年後の姿を現役世代で見ることはない中で、次世代、次々世代に渡せるものをいかに誇らしくつくるかという意味で、長い時間をかけてみんなで丁寧に作り上げていくことや、そのプロセスそのものが、地域への愛着を深めるきっかけにつながると考える。まちづくりの自分ゴト化が中心になるべき時代において、他の地域からも高い評価を得られるような取組のプロセスをみんなでデザインして頂きたい。

議長 : 地域の誇りとなる他に類のないものを目指すためには、県と市が連携して進めていかなければ成り立たないと考える。双方で意見交換、情報共有などを図りながら進めていきたい。

## 6. 閉会

以 上